

吉島地区の 生活支援について

本日の内容

1. 生活支援とは
2. 吉島地区生活支援ニーズ調査概要
3. 調査結果
 - 1) 吉島地区の生活支援ニーズについて
 - 2) 吉島地区の生活支援の担い手について
4. まとめ

生活支援とは

生活支援（厚生労働省，2014；2007）

地域で暮らす高齢者が
日常生活において抱く困りごとを解決するための支援で、
住み慣れた地域での高齢者の在宅生活を支えるために行われる



生活支援の必要性

- 住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域の生活支援サービスの充実、高齢者の生活支援の担い手としての参加が重要

地域の生活支援サービスの充実

- 高齢化に伴う単独世帯、高齢者のみの世帯、生活支援ニーズの増加
(内閣府, 2018, 厚生労働省, 2014)
- 生活支援サービスが充実すると地域で安心して暮らせる(厚生労働省, 2018)

高齢者の生活支援の担い手としての参加

- 少子化による地域のサービスの担い手の減少(三菱UFJリサーチ&コンサルティング, 2015)
→担い手を幅広く確保することが必要
- 高齢になっても社会参加をすることが健康につながる(厚生労働省, 2018)
→高齢者が生活支援の担い手になることが期待

吉島地区生活支援ニーズ調査概要

目的

どのような生活支援が吉島地区にお住まいの皆様に必要なとされているのかを知る

2018年



2020年

- 地区の高齢者の皆様を対象にアンケートを実施(1回目)
- 地区の高齢者の皆様を対象にアンケートを実施(2回目)
 - ▶ 配布数: 942 (2021年3月末の年齢が65歳以上の全高齢者)
 - ▶ 回収数: 803 (回収率: 85.2%)
 - ▶ 有効回答数: 732 (有効回答率: 77.7%)

- 1) 吉島地区の生活支援ニーズについて
- 2) 吉島地区の生活支援の担い手について



「家事に関することについて」(9項目)

「日常生活のちょっとした困りごとについて」(9項目)

「イベントや集まりへの参加などについて」(6項目)

「病院受診や生活のトラブルについて」(9項目)



- 入退院時の対応・重労働作業・生活のトラブルに関する生活支援ニーズが多い

- 自分が入院や退院するときの対応を手伝ってもらおう(33.3%)
- 家具や家電など、大きな物の移動を手伝ってもらおう(33.3%)
- 冬の時期の雪かき・雪おろしを手伝ってもらおう(33.0%)
- 自分の体調が悪い時に看病してもらおう(32.7%)
- 消費者被害にあったときに対処してもらおう(32.6%)

※()内は「必要性を感じる」と答えた方の割合を示す

- 女性は家事や社会的つながりを持つことや身体的負担の大きい作業、生活での困りごとに対する相談について支援を求めている

【男性に比べ、女性の方が『必要性を感じる』者が多かった項目】

- 「家事」に含まれる項目
- 「イベントや集まりへの参加」に含まれる項目
- 外出時の付き添いや送迎
- 雪かき・雪おろし
- 生活のトラブルや相続についての相談・手続き



- 高齢であるほど、生活支援全般へのニーズは高い
- 生活支援ニーズの全ての項目で、前期高齢者(65-74歳)に比べ、後期高齢者(75歳以上)の方が『必要性を感じる』者が多かった



- 経済的余裕がある者は、日常生活を送る上で優先度・必要度が高い支援に対しては、対価を払ってもよいと考えている
- 一方、経済的余裕がない者は、自分に必要と感じていても対価を払うことには後向きである

【生活のゆとりとの関連が見られた項目】

- 家の中の整理整頓(片付け)
- 家具や家電などの移動
- 庭仕事や草取り
- イベントや健康づくりの活動へのお誘い
- 雪かき・雪下ろし
- 消費者被害への対処
- 生活のトラブルや相続についての相談・手続き



- 入退院時の対応・重労働作業・生活のトラブルに関する生活支援ニーズが多い
- 性別、年代、生活のゆとりといった特性により生活支援ニーズは異なる
- サービスへの対価を支払ってでも利用したいという方もいる

生活支援の受け手のニーズに合わせたサービスを提供できる体制を整えることが重要

- 話し相手・困ったときの相談相手
- 見守り・安否確認の声かけ
- 食事の準備や掃除・洗濯の手伝い
- 気軽に参加できる集まりやイベントに誘う
- 買い物の同行・代行
- 通院の送迎や付き添い
- 庭仕事や畑作業などの外回りの作業
- 雪かき・雪下ろし



生活支援の担い手としての意向と実施

担い手

- 吉島地区には生活支援の担い手になりたいと考える人がいるが、実施していない場合もある

	担い手になりたい	担い手になりたくない	合計
実施している	27.4% (173人)	6.0% (38人)	33.4% (211人)
実施していない	34.2% (216人)	32.4% (205人)	66.6% (421人)
合計	61.6% (389人)	38.4% (243人)	100% (632人)

生活支援を実施していない理由

担い手

- 2番目に多かった理由は「身近に手助けが必要な人がいない」
 - 生活支援の受け手と担い手のマッチングにより担い手を増やすことができる可能性



健康・体力に不安がある
身近に手助けが必要な人がいない

仕事・家事が忙しい

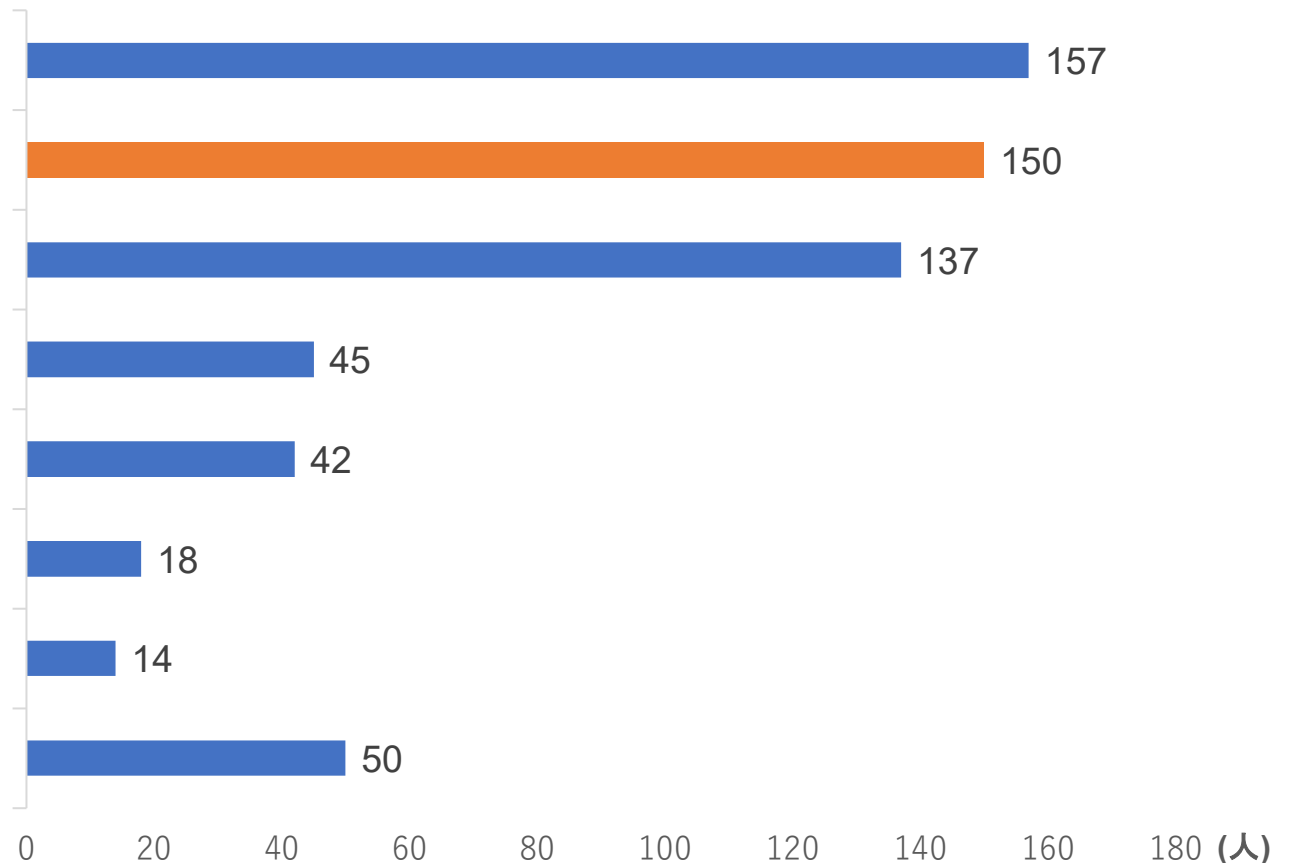
手助けが必要な人にどう声をかけてよいかわからない

相手とのトラブルが心配

介護・育児が忙しい

手助けをすることに関心がない

その他

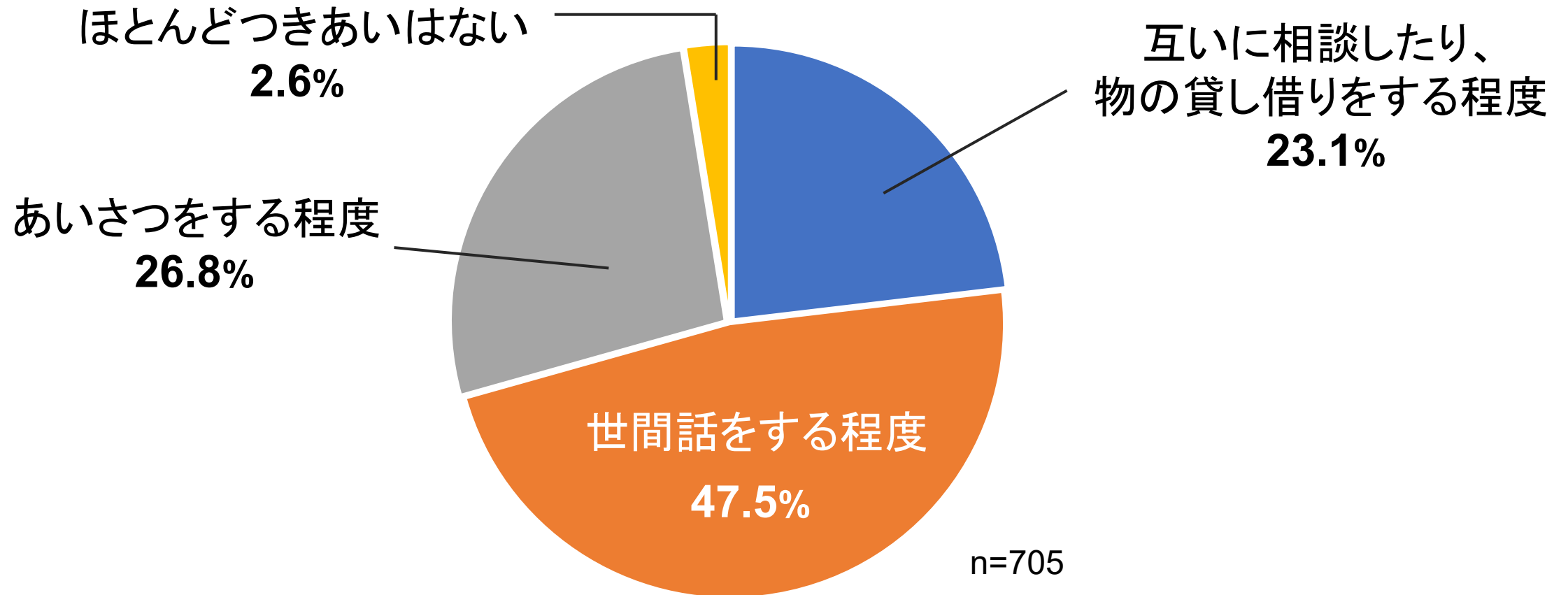


n=613, 複数回答

吉島地区の近所付き合いの程度

担い手
(マッチング)

- ほとんどの人が近所付き合いをしており、世間話をする程度の付き合いをしている人が多かった

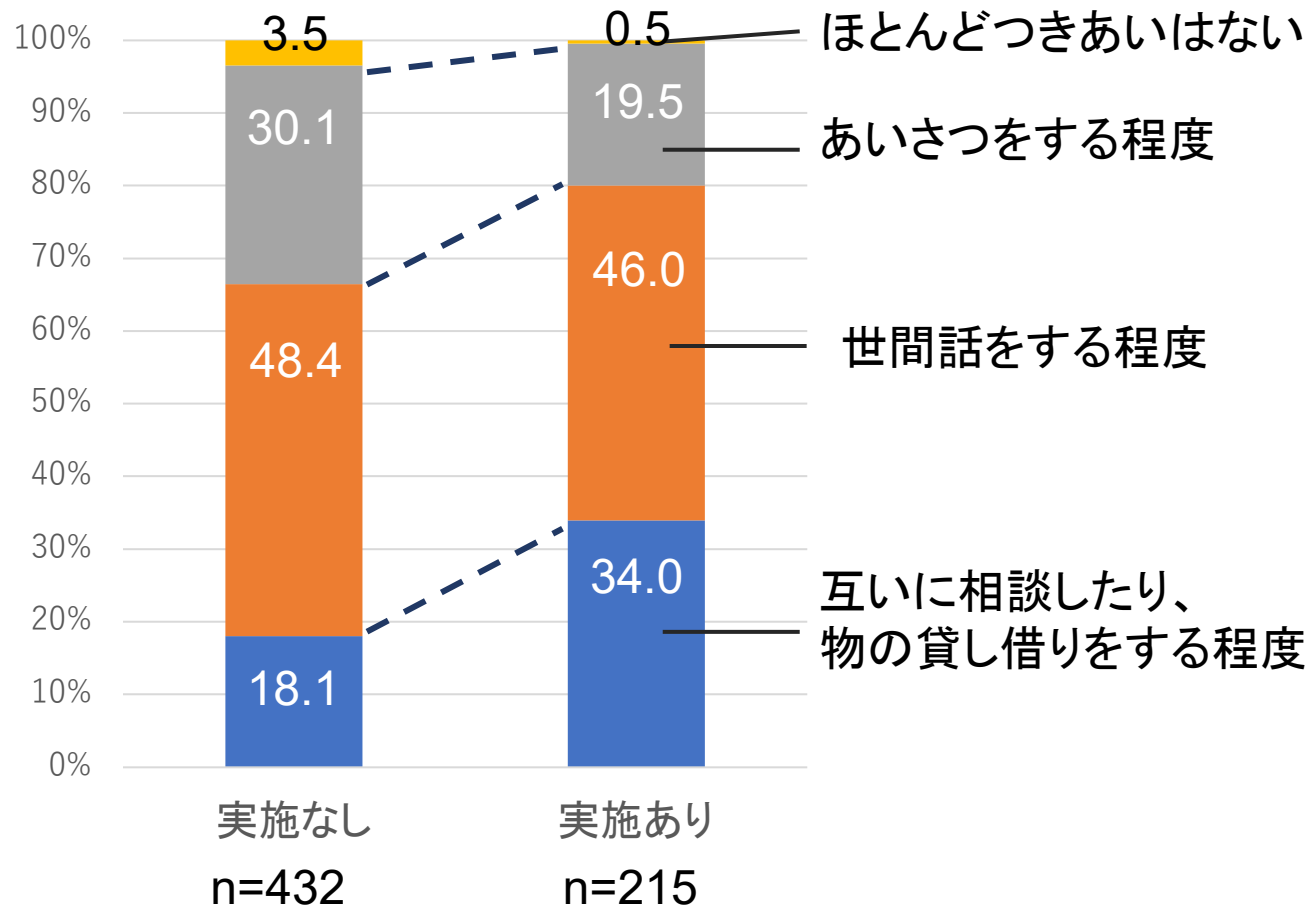


近所付き合いと生活支援の実施

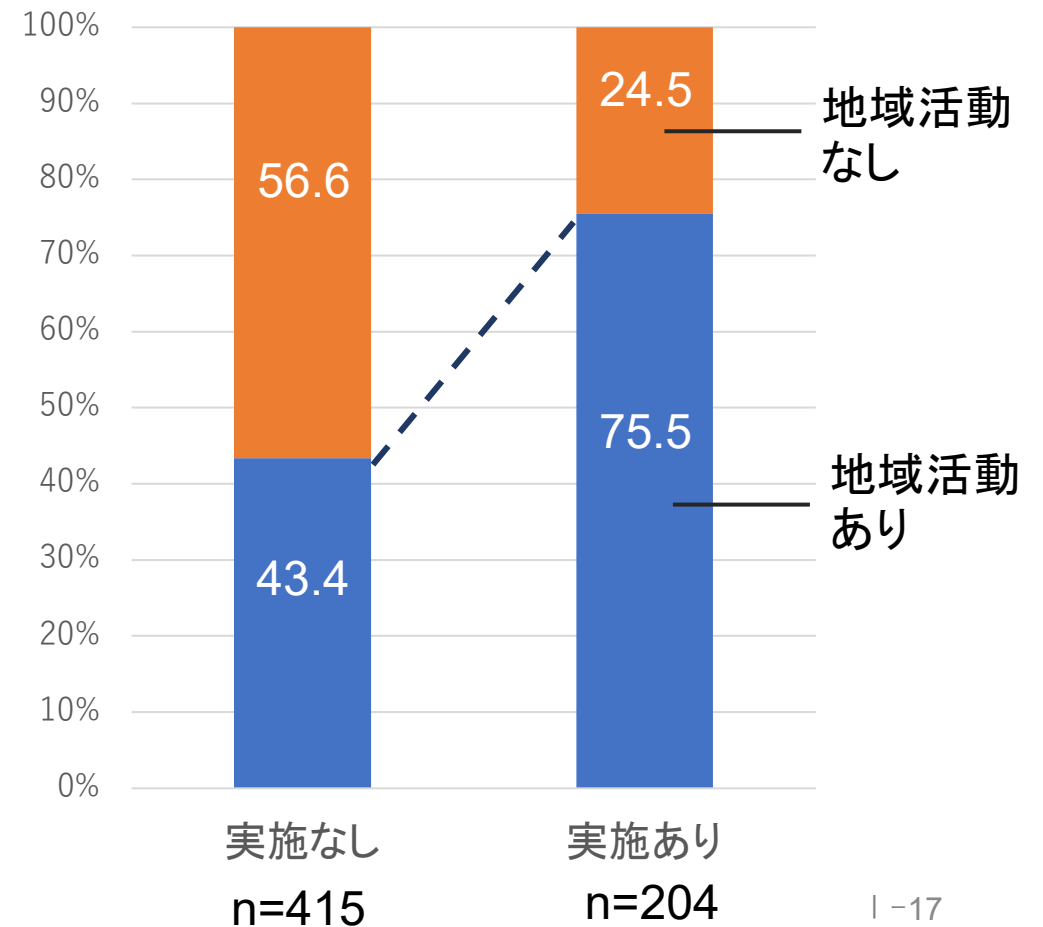
担い手
(マッチング)

- より深い近所付き合いをしている人、地域活動をしている人の方が生活支援を実施している
- 近所付き合いを深めることにより生活支援を実施する人も増える可能性

近所付き合いの程度と生活支援の実施有無



地域活動の有無と生活支援の実施有無



助けられ上手な人の近所付き合い

担い手
(マッチング)

- 助けられ上手な人はより深い近所付き合いをしている



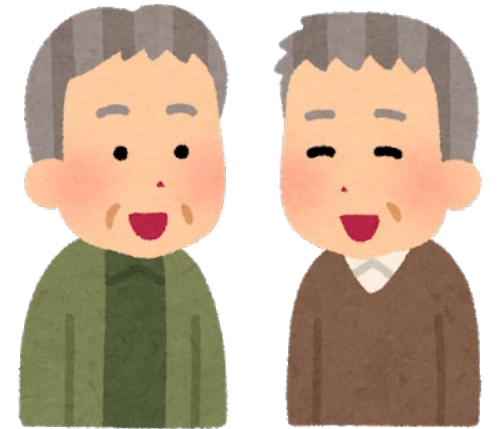
近所付き合い



信頼関係構築の機会



援助を受けることに対する抵抗感が低められる可能性



- 吉島地区には生活支援の担い手になりたいと考える人もいる
- 「身近に手助けが必要な人がいない」ことが生活支援を実施できていない理由の一つ

生活支援の受け手と担い手のマッチングが必要

- より深い近所付き合いをしている人、地域活動をしている人の方が生活支援を実施している
- 助けられ上手な人はより深い近所付き合いをしている

生活支援の受け手と担い手のマッチングを進めるためには近所付き合いを深めることが重要

調査結果のまとめ

- 入退院時の対応・重労働作業・生活のトラブルに関する生活支援ニーズが多い
- 個人の特性により生活支援へのニーズは異なる

- 吉島地区には生活支援の担い手になりたいと考える人もいる
- より深い近所付き合いをしている人の方が生活支援を実施している
- 助けられ上手な人はより深い近所付き合いをしている

吉島地区の今後の生活支援の充実に向けて重要なこと

- 受け手のニーズに合わせた生活支援サービスの提供
- 生活支援の受け手と担い手のマッチングの推進
(近所付き合いを深めることが重要)